

♌の恒星 場 (7) てんびん 座

土山 紀子

おとめ座とさそり座に挟まれたてんびん座は、黄道12星座の中では比較的目立たない存在です。古代ギリシア人にはサソリの♏と見られ、その後、おとめ座になった正義の女神アストラエアが善悪を測るために使った天秤と見られるようになりました。

けれど、てんびん座はプトレマイオス以前の古い星座です。2700年～4300年前、今はおとめ座にある秋分点がこの星座にあったことから、“昼夜の長さを測って等しく分ける天秤”という意味で、紀元前46年にシーザーがユリウス暦を判定した後、てんびん座として独立したのだそうです。

昼夜を等しくわけていたことが転じて、ギリシア・ローマ時代のてんびん座は、収穫の季節を知る大切な星座とも考えられていました。

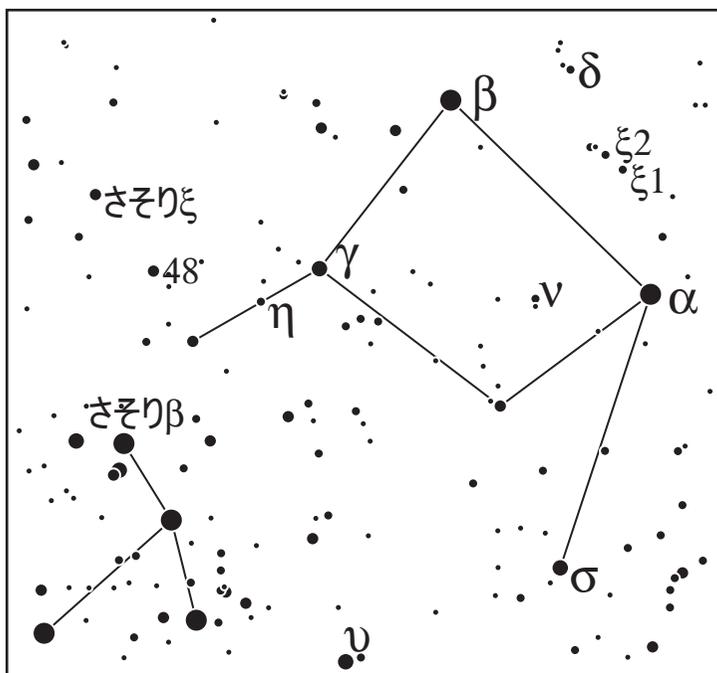
てんびん座の星々の名前にはこうした星座の歴史が秘められており、サソリに関連した名前が多く見られます。

まず、2.8等の α と5.2等の α 1から成る α 星、ズベン・エル・グヌビ（南の♏）。その名の通り、さそり座の♏と見られていた時代の名残です。

この星にはキファ・アウストラリスという別名がありますが、こちらは“南の♏”という意味で、天秤の♏を表しています。“キファ”はアラビア語、“アウストラリス”はラテン語ですが、このように、星名には南・北・♏などの位置を表す語のみがラテン語になっている例が多く見られます。

アラビアでは、アル・フズン・アル・ジャヌービヤーという名も知られ、これは天秤の“南の重り”という意味。

β 星（2.6等）も、 α と全く同じ様に、さそりの♏として“北の♏”と呼ばれたり、天秤の“北の♏”として呼ばれたり。前者の名前がズベン・エル・シエマリ、後者の名前がキファ・ボレアリスです。ズベン・エル・シエマリは、ズベン・エス・カマリ、ズベネシュ、ズベネルグなどと呼ぶこともありますが、全てアラビア語の北の♏：アル・ズバーン・アル・シユマーリヤーが語源になっています。



この他にてんびん坐には𐤀𐤃𐤁𐤀を持つ皇がたくさんありますが、実はてんびん坐の皇名というのは資料によって記述がバラバラで、非常にややこしくなっています。おそらく手書きの時代の誤記など様々な理由で幾つもの間違いが混在し、現存市販されている本も、その音音が用いた資料によって記述が異なるという結果になったのでしょうか。

ここでは、私が調査可能な範囲で知り得た名前全てを列挙してみることにします。

- γ (3.9等) : ズベン・エル・ハクラビ (南の Π) , ズベン・エル・アクラブ
- δ (4.9等) : ズベン・エラクリビ (南の Π)
- η (5.4等) : ズベン・ハクラビ (𐤀の Π)
- $\xi 2$ (5.5等) , $\xi 1$ (5.8等) : グラフィアス (かに)
- $\sigma = 20$ (3.3等) : ズベン・エル・ハクラビ (南の Π)
- ν (3.6等) : ズベン・ハクラビ (𐤀の Π)

以上が、市販の日本語の本数冊から引っ張ってきた名前です。

γ ・ η ・ σ ・ ν に、同じズベン・ハクラビという名がついていますが、これは、元々さそり坐 γ の名前でした。当時のさそり坐 γ は、現在てんびん坐 σ と呼ばれています。また、現在のさそり坐には γ 皇が存在しません。

そんなわけで、てんびん坐 σ が元祖ズベン・ハクラビ。故意か誤記かは不明ながらも、とにかく“ γ ”のよしみでズベン・ハクラビの名をもらったのが、てんびん坐 γ 。てんびん坐 $\gamma =$ ズベン・ハクラビの最初の記述はボーデの『フラムステイード皇』(1782)ということですから、この名も既に200年以上の歴史を持っています。

さらに、アメリカのバリットが『天空地理学』(1835)で γ の隣にあるてんびん坐 η に、間違えてズベン・ハクラビの名を与えたことから、 η もこの名で知られるようになりました。 ν の名も間違いが重なって生まれたもので、 γ を ν と取り違えたヨーロッパの文獻を見た本人が、さらに ν と ν を取り換え、本だけにてんびん坐 $\nu =$ ズベン・ハクラビという名が知られるそうです。

ズベン・ハクラビの意味も、𐤀の Π , 南の Π などの誤が混在していますが、正しくは“サソリの Π ”。アラビア語でサソリのことをアル・アクラブと呼び、これが語源と考えられます。アクラブはさそり坐 β 皇の𐤀𐤃𐤁𐤀にもなっています。

δ のズベン・エラクリビは比較的新しい名で、『ベクヴァル皇表』(1964)に記述があるようですが、それ以前の文獻については不明。意味は、おそらくズベン・エル・ハクラビと同じく“サソリの Π ”ではないでしょうか。

ξ の名とされているグラフィアスは、𐤀という意味のギリシア語で、正しくはさそり坐 β の名前です(アクラブとグラフィアス共にさそり坐 β の𐤀𐤃𐤁𐤀)。古代ギリシア語では、“サソリ”と“𐤀”は同義語だったのです。

ところが先述のバリットは、さそり坐 β ではなくさそり坐 ξ (4.2等)をグラフィアスとし、しかもさそり坐 ξ の位置をてんびん坐48番皇 (4.9等)と間違えて書いていたのだそうです。てんびん坐 ξ は、さそり坐 β 、さそり坐 ξ のどちらからも離れていますが、結局同じ ξ の名を持つことからグラフィアスと呼ばれることになったのでしょうか。

何とも複雑怪奇な名もつれに絡まり埋もれた、てんびん坐の皇々です。